

貴布禰神社

貴布禰神社は若宮神社と共に江良地区のお宮として地区住民から古くから慕われてきました。かつては大層な賑わいを見せたと云われる貴布禰神社を由緒、寄進物、奉納品から紐解き、今後も身近なお神社として再認識して、将来に繋げたい。

貴布禰神社の由来

元禄3年（1690年）に京都府京都市左京区鞍馬貴船町の貴船神社の御祭神を分けて祀（まつ）られた。

当初は住吉貴布禰対明神と言われていたが、明治期に貴布禰神社と称するようになった。祭神は伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が火の神を斬って、生まれた三柱である。

雷神（いかずちのかみ）

--- 雷の神

大山祇神（おおやまずみのかみ）

--- 大いなる山の神

高麗神（たかなるかみ、たかおかみのかみ）

--- 降雨・止雨を司る龍神。雲を呼び、雨を降らせ、陽を招き、降った雨を地中に蓄えさせて、それを少しずつ適量を湧き出せる働きを司る神。

水に係る神々を祀っている。



京都貴船神社を辿ってみれば・・・

京都府京都市左京区鞍馬貴船町の貴船神社は、社前には賀茂川の上流に位置する貴船川が流れており、京の市中を潤す鴨川の源流とも考えられた。水神である高麗神を祀り、古代の祈雨八十五座の一座とされるなど、古くから祈雨の神として信仰された。水の神様として、全国の料理・調理業や水を取扱う商売の人々から信仰を集めている。

「きふね」は、万物」のエネルギーである氣が生ずる根源の地、という意味で「氣生根」であり、その御神氣にふれるだけで元氣がよみがえるといわれている。元氣回復すれば運氣も上がる、まさに「運氣龍昇」の神が鎮まる地であり、古来、運氣発祥の信仰が盛んで、いろいろな願い事で人々は参詣している。所願成就、縁結び、運氣隆昌。



社名は古くは木船・貴布祢とも書かれ、1871年以降「貴船」と改められました。当社から勧請を受けた神社は約450社ある。貴舟神社、貴布禰神社、貴布祢神社、木船神社、木舟神社など。（京都府 貴船神社HPから）

貴布禰神社の崇敬（すうけい）

貴布禰神社は、備中国2万石庭瀬藩の当主である板倉摂津守の御祈願所になる。庭瀬藩は、現岡山市北区庭瀬に陣屋を置き、備中地域を治めた。板倉家は元禄12年から明治4年（1699年～1871年）まで11代にわたり治めた。明治以降、庭瀬県となり、その後、深津県・小田県を経て岡山県に編入された。

貴布禰神社は多くの信者に崇敬されていたことは、建造物や額などの寄進者の記録から伺えます。

社殿建造物寄進暦

御社殿	元禄7年（1694年）	建立
石鳥居	明和8年（1771年）	建立
御社殿	寛政3年（1791年）	再建
御社殿	天保11年（1840年）	修復
御社殿	明治13年（1880年）	再建
石燈籠	文化2年（1805年）	建立
石燈籠	文化5年（1808年）	建立
宝珠の代わりに「御キツネ様」		
百度石	明治4年（1871年）	建立
注連柱	明治43年（1910年）	建立
回廊	昭和15年（1940年）	建立
玉垣	昭和16年（1941年）	建立



寄進した信者は、備中、備前岡山にもおよび、江戸時代から昭和初期にかけてひろく崇敬されていたことが伺われます。

貴布禰神社は、横島の道通神社、横谷の福頼神社とともに、備中南部の三大祈願所として、ひろく万民に崇敬されながら今日に至っている。

貴布禰神社への参道筋には、神社までの距離や方位を記した案内石柱が三か所残る。多くの参拝者で賑わっていた痕跡である。（4ページ参照）



神社の門（神門）の左右に武者姿の像が鎮座している。随神（隨身ずいじん）といって神社の守護神である。閻神（かどもりのかみ）・看督長（かどおさ）と言って、衣冠束帯を身に着けた武官姿をしており、左手に弓・右手に矢を持ち帯刀している。

また、鬼瓦（鬼面のシャチ）、葉姿の手洗鉢など興味深い。



拝殿の奉納品

算額 元治元年（1864年）

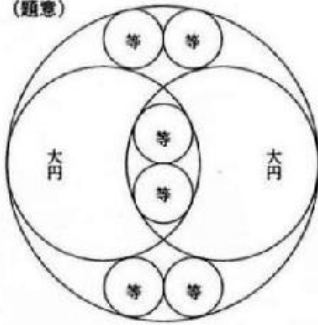
幕末に地元佐藤氏と守屋氏が師匠佐伯氏と共に算術を学ぶ志しを広く伝承したいとの思いから奉納されたと記述が残る。

矢掛町重要文化財指定

高校生の学力でも解くことができるようです。チャレンジしてみてください。

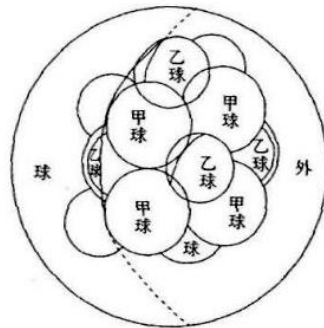


第二問
(題意)



図の様に外円の内に大円2個と等円6個がある。外円直径が既知のとき等円直径を得る術を求めよ。

第一問
(題意)



図の様に外球の内に甲球8個乙球6個が入っている。甲球は外球内にぎっしりつまっており乙球は甲球4個と外周とに接している。外球直径既知のとき乙球直径を得る術を求めよ。

文献：岡山の算額 山川芳一

和歌集

天保年間（1831年～1845年）に奉納された和歌集

歳月の経過により解読は困難な状態です。

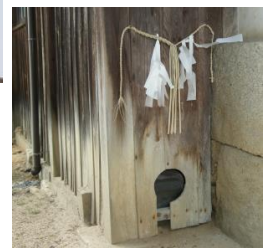
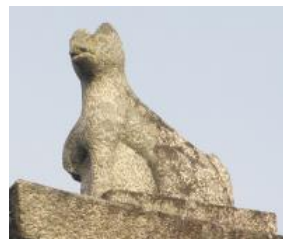


御キツネ様

貴布禰神社の神さまの「おつかい」はキツネです。社殿の裏側左右に二つの御キツネ様の出入り口があり、裏山の伽藍山山系から来られるのだろうか。

高梁川が洪水で渡れない時には、キャンキャン鳴って知らせたといい、握り飯が好物でお供えしておくとも必ず次の日にはなくなったという。水災害の警告を啓示する。

石燈籠には宝珠の代わりに御キツネ様が鎮座しています。



祭事

夏例祭 8月 冬例祭 12月

輪くぐり神事

茅の輪をくぐり罪けがれを取り除きお清めをする神事。

その起源は備後の国土風土記により素佐之鳴命が「もし悪病が流行した時チガヤで輪を作りこれを付けていれば災難を逃れられる。」と託宣を受けた故事によります。

輪くぐり祭のとき行われる神事に「大祓い（おおはらい）」があります。大祓いは、人々の心身に色々と災害が起る原因を取り除き祓い清める神事です。大祓いには必ず神社に詣で、祓いを受けるべきですが、古くより「形代」を用いた慣例に従い、神社よりお配りする和紙製の人形（形代）に息を三度吹きかけ心身の罪けがれを撫で移して、神職にお渡してください。その後、神社よりお配りした小さく切り刻んだ多数の和紙をご自身の体の中で不調と思われる部位に当てて、撫でて、けがれを取り除いてください。人形（形代）は、当神社で六月、十二月の三十日に大祓い式を厳修し、後に、この形代を河海へ流し清めて氏子各位の罪けがれの消滅を祈願致します。（総社社 社務所から）

水無月の夏越しの祓いする人は

千歳の生命うくというなり

祓え給え 清め給え

貴布禰神社の所在地

貴布禰神社は、伽藍山山系を背にして鎮座する。降雨をもたらす雷鳴が轟く伽藍山山系から田畑を潤す江良谷川と長谷川が龍のごとく流れ、高梁川水系の小田川に流れ込む。雨上がりには、霧が昇龍として山間を駆け上る。近隣には、同じく水の神として龍王神社、滝神社が鎮座して、この地を守護されている。

終わりに

貴布禰神社は、水に係る神々が鎮座する社であり、所願成就、病氣平癒など様々な祈願にご利益があるようです。算額が寄進されていることから学問の神ともいえるのでしょうか。また、御キツネ様伝承も石燈籠にキツネが鎮座するところから古い伝承と思われます。社殿についても屋根付きの回廊、神門、百度石など近隣の神社には見られない貴重な文化財であることは確かです。今後も新たな気付きがあるかもしれません。これからも幾久しく、貴布禰神社が我々の心のよりどころになりますように。

